

第 8 期計画の評価

基本目標 1 地域共生社会の実現

(1) 地域共生社会の実現に向けた取組

【第 8 期計画の主な施策】

- ①第 2 層協議体未整備地区への整備
- ②第 2 層生活支援コーディネーターの配置
- ③第 2 層協議体における地域ボランティアの仕組みの構築
- ④福祉の総合相談窓口の設置
- ⑤市職員の地域福祉に関する意識や資質の向上のための研修の実施

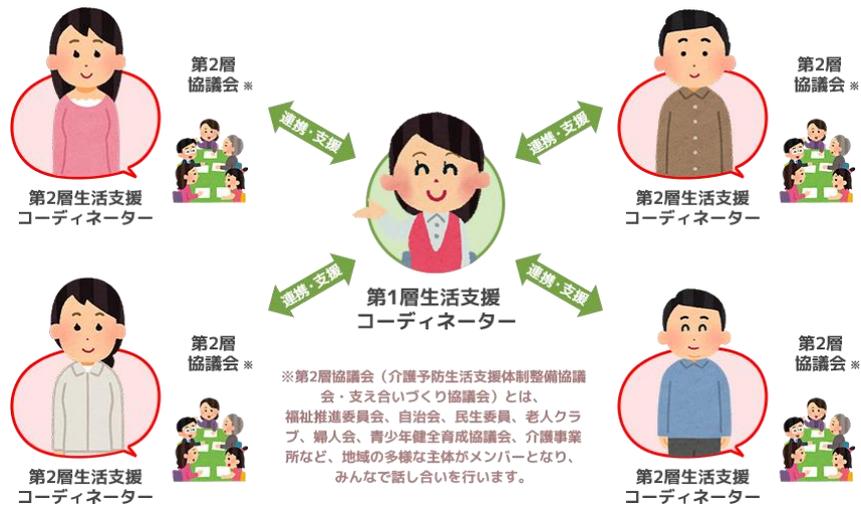
【取組状況】

- 第 8 期計画では、地域共生社会の実現に向け、地域での支え合いの活性化や複合的な課題を抱える人に対する支援体制の整備に取り組んでいます。
- 第 2 層協議体（支え合いづくり協議会）は、2022 年で 7 地区まで整備を進め、残り 1 地区に関しては早期の発足をめざし、協議等を進めています。また、生活支援コーディネーターは 2023 年 4 月から第 1 層に 1 人、第 2 層に 4 人を配置し、生活支援サービスの取り組みを進めています。
- 第 2 層協議体単位で、通いの場の実施や高齢者の困りごとに対する支援、地域におけるボランティアの仕組みの構築など、地域における助け合い活動を 2 地区（2022 年度末現在）で実施しています。
- 多様化・複雑化する市民の困りごとに対し「福祉の総合相談窓口（ことわらない相談窓口）」を 2021 年 4 月に設置し、切れ目のない包括的な相談体制の構築と必要な支援につないでいます。
- 市職員の地域福祉に対する意識等の向上を図るため、2021～2022 年は「認知症サポーター養成講座」、2022 年は「成年後見制度に関する研修」を実施しました。

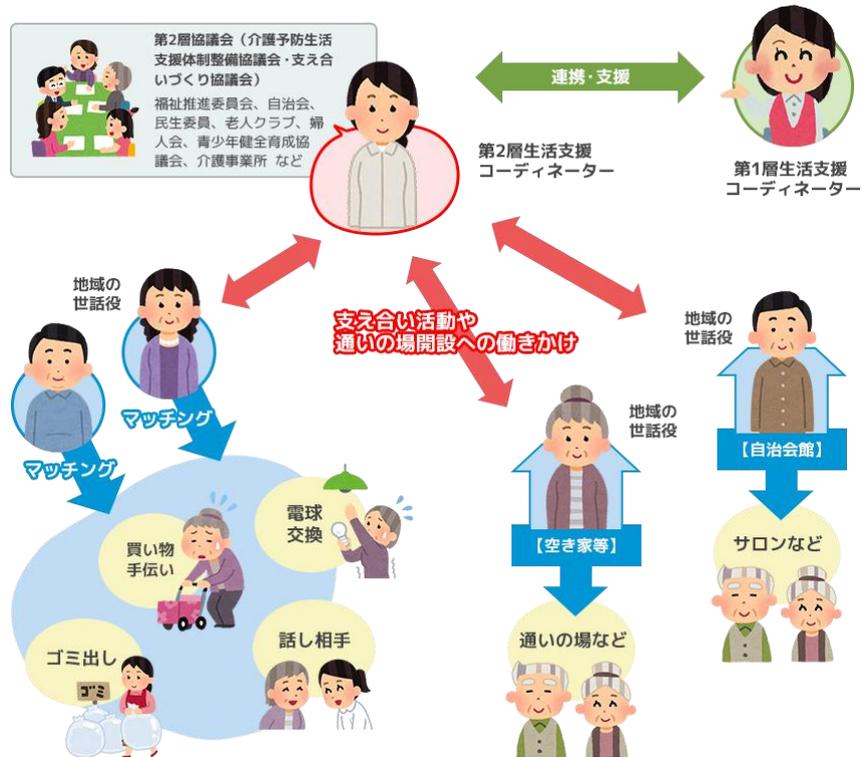
評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021 年	2022 年	2023 年
①第 2 層協議体未整備地区への整備	第 2 層協議体数(累計)	目標	6	7	8
		実績	6	7	
②第 2 層生活支援コーディネーターの配置	コーディネーター配置数(累計)	目標	2	3	4
		実績	2	3	
③第 2 層協議体における地域ボランティアの仕組みの構築	協議体数(累計)	目標	1	2	3
		実績	2	2	
⑤市職員の地域福祉に関する意識や資質の向上のための研修の実施	意識や資質の向上のための研修実施回数	目標	2	2	2
		実績	1	2	

第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーター



第2層協議会と生活支援コーディネーター



※高砂市社会福祉協議会ホームページより引用

(2) 高齢者を取り巻く環境整備

【第8期計画の主な施策】

- ①緊急通報システムの貸与
- ②配食サービスによる見守り体制の実施
- ③民生委員・児童委員等の活動の支援

【取組状況】

- 第8期計画では、安全で安心して暮らせるよう、高齢者の利用に配慮した都市環境や住環境、地域で高齢者を見守ることの体制の整備を進めています。
- 兵庫県福祉のまちづくり条例に基づき、高齢者のみならず、障害のある人や妊婦、乳幼児など、すべての人が、いつでも、いきいきと生活し、能力を發揮して活動できるユニバーサル社会の実現に向けた福祉のまちづくりを進めています。
- 空家等を利用し高砂市に定住したい人や高砂市にお店を開きたい人に、市内の空き家（空き店舗）情報（空き家バンク）に取り組んでいます。
- 緊急事態における高齢者の不安を解消するとともに、高齢者の生活の安全を確保しつつ、必要な支援につなぐため緊急通報システムの貸与を行っています。2021年から2022年にかけてわずかに利用者が減ったものの、概ね利用者は増加傾向にあります。2023年4月から携帯電話のみの世帯も設置を可能とし、より利用しやすいシステムづくりを進めています。
- 高齢者の安否確認を兼ねた配食サービスは委託事業者の事業撤退のため、2022年5月をもって事業を廃止しました。
- 民生委員・児童委員等の活動を支援するため、民生委員児童委員協議会研修会及び中堅民生委員・児童委員研修会の開催を支援しました。また、民生委員・児童委員活動を支援するため「高砂市民生委員・児童委員活動の手引き」の配布を行いました。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①緊急通報システムの貸与	利用者数(累計)	目標	170	180	190
		実績	188	186	
②配食サービスによる見守り体制の実施	利用者数(累計)	目標	170	175	—
		実績	151	135	—
	延べ配食数	目標	8,100	8,300	—
		実績	7,037	971	—
③民生委員・児童委員等の活動の支援	研修会開催支援回数	目標	2	2	2
		実績	2	2	

(3) 高齢者の積極的な社会参加

【第8期計画の主な施策】

- ①高齢者大学を通じた社会参加の促進
- ②老人クラブの活性化に向けた支援
- ③高齢者ボランティアの育成と活動支援
- ④高齢者の就業支援

【取組状況】

- 高齢者一人ひとりが身体・生活機能を維持しつつ、活動的で生きがいを持てる生活を営めるよう、ボランティアの育成や就労・就業支援など、高齢者の社会貢献活動を支援しています。また、高齢者が地域の担い手になれるよう、地域づくりへの普及啓発や研修会の開催などの取り組みを進めています。
- 高齢者大学では、1～4年生、0Bまでの学習活動、作品展等を開催するとともに、高齢者大学での学習成果が生かされるよう、地域のボランティア活動への参加も促しています。新型コロナウイルスの影響に伴い活動数が減少しています。また、入学者も減少している状況にあります。
- 老人クラブはクラブ数・会員数ともに減少傾向にあることから、老人クラブに対する支援、加入促進に向けたPR活動を実施しています。
- 高齢者のボランティアを増やすため、高齢者向けのボランティア入門講座を開催していますが、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等の影響により2021年は未開催、2022年も参加が少なくなっています。
- シルバー人材センターの会員数は2016年度以降、毎年減少傾向が続いていましたが、パンフレットや刊行物を様々なところに配布しました。新規入会者の増加に加え、体調不良などによる退会者数の減少に伴い、会員数は増加傾向にあります。一般企業の定年の延長・再雇用の拡大が進んでいる中、会員数の維持・増加に向けた新たな取組・仕組みが必要となっています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①高齢者大学を通じた社会参加の促進	授業が地域や社会での活動に活かせていると感じる生徒の割合(%)	目標	30	35	40
		実績	20	20	
②老人クラブの活性化に向けた支援	老人クラブ会員数(累計)	目標	3,350	3,350	3,350
		実績	3,123	3,009	
③高齢者ボランティアの育成と活動支援	高齢者ボランティア育成講習会参加者数	目標	15	15	15
		実績	0	3	
④高齢者の就業支援	シルバー人材センターの登録者数の維持(累計)	目標	405	410	415
		実績	388	399	

基本目標2 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進

(1) 地域包括支援センターの機能強化

【第8期計画の主な施策】

①地域包括ケアシステムの整備
②介護予防ケアマネジメント事業
③地域包括支援センターの相談支援の強化
④権利擁護事業
⑤包括的継続的ケアマネジメント事業

【取組状況】

- 高齢者の暮らしを地域でサポートする中心的な役割を果たす地域包括支援センターでは、高齢者の総合相談をはじめ、介護予防や権利擁護にかかわる様々な事業を実施しています。
- 高齢者の身近な相談窓口として、高砂市地域包括支援センターと協力センターを4か所設置しています。高砂市地域包括支援センターでは様々な相談に対してより幅広く対応ができるよう社会福祉協議会と協議を重ね、2023年4月から土曜日、平日の時間外にも相談ができるようになりました。地域包括支援センターへの相談件数は年々増加しています（2021年は1,540件、2022年は1,730件）。
- 高齢者の自立支援の促進に向け個別ケア会議を開催し、個別事例の解決と地域課題の発見等に取り組んでいます。2022年は24回開催し、目標の実施回数を超えています。
- 介護予防ケアマネジメントでは、ケアマネジャーが総合事業のサービスを組み合わせ、介護予防を図れるプランを作成できるよう支援しました。また、2021年度に総合事業パンフレットを作成し、市民やケアマネジャーに向けての普及啓発を図りました。
- 地域包括支援センターでは、「高齢者の虐待防止」「悪質商法の被害防止」に取り組むとともに、「成年後見制度」の利用に向けた支援を行っています。成年後見制度の市長申立て件数は2022年度で11件と徐々に申立て件数は増えている状況にあります。
- 成年後見の中核機関を2022年度から市に設置するとともに、本市における成年後見に関する取組をさらに進めるため、「高砂市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会」を開催し、各関係機関における成年後見制度の相談件数や対応状況について共有し、今後の対応等に対する協議を進めています。成年後見の中核機関は現在市に設置していますが、2024年度から社会福祉協議会での実施に向けた協議を進めています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①地域包括ケアシステムの整備	個別ケア会議の実施回数(回)	目標	22	22	22
		実績	20	24	
②介護予防ケアマネジメント事業	被保険者における要介護認定(要介護1から5)者の割合%	目標	12	12	12
		実績	12	12	
		目標	期間内の整備を目指す		

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
③地域包括支援センターの相談支援の強化	夜間、土日、休日の相談体制の強化	実績			
④権利擁護事業	成年後見制度利用のための中核機関の設置	目標	期間内の整備を目指す		
		実績		設置	

(2) 認知症施策の推進

【第8期計画の主な施策】

<ul style="list-style-type: none"> ①認知症相談センターの周知 ②認知症の早期発見・早期対応等のための体制の整備 ③認知症の人の権利擁護のための中核機関の設置（再掲） ④認知症サポーターの拡大 ⑤行方不明高齢者等の早期発見・保護に向けた地域連携の構築 ⑥見守りカメラの整備の検討 ⑦認知症カフェの充実 ⑧認知症の人と家族の会の活動支援
--

【取組状況】

- 認知症の人ができる限り地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をめざし、認知症に関する知識の普及をはじめ、早期発見・早期対応の取り組みの充実や認知症バリアフリーの促進などに取り組んでいます。
- 認知症相談センターを高砂市地域包括支援センターに設置し、医療機関の受診や介護・福祉のサービス利用等に関する相談に応じています。認知症相談センターの認知度は25.2%と、前回調査とほぼ同じ結果となっています。
- 医療と介護の専門職及び専門医で構成する認知症初期集中支援チームで、早期診断・早期対応に向けた検討を行い、必要な支援を行っています。2022年の検討ケースは延べ96件と、年々増えています。
- 認知症に対する正しい知識と誰もが暮らしやすい地域づくりを進めるため、認知症サポーター養成講座を開催し、2022年の参加者は694人で、養成者数は2023年6月末現在で10,469人（出典：認知症サポーターキャラバンホームページより）となっています。
- 2022年度に「高砂市版認知症あんしんBOOK」（高砂市版認知症ケアパス）を作成し、認知症に関する相談窓口や医療機関に関する情報をはじめ、認知症予防や支援団体の情報、受けられる支援など、様々な情報を発信しています。
- 認知症による徘徊高齢者を早期に発見するため、高齢者等見守り・SOSネットワークを構築しており、ネットワーク協力者は2022年で443人（事業所含む）と年々増加しています。また、早期発見に向けた見守りカメラの設置を進めています。
- 認知症の人やその家族が気軽に交流できる場として認知症カフェを市内5か所あります。コロナ禍であったため、2021年は1か所で開催され参加者は延べ100人、2022年は3か所で開催され参加者は延べ205人と年々増えている状況にあります。

○認知症の人とその家族が介護の悩みや苦勞を共有し、励ましあい、支えあう介護者の会の活動を支援するとともに、2022 年は家族会の有志とオレンジガーデニングプロジェクトのイベントを開催しました。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021 年	2022 年	2023 年
①認知症相談センターの周知	認知症相談センターの認知度 (%) (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	目標	-	-	40
		実績	-	-	25.2
②認知症の早期発見・早期対応等のための体制整備	初期集中支援チームの対応件数(件)	目標	25	25	25
		実績	86	96	
④認知症サポーターの拡大	認知症サポーター養成講座受講者数(人)	目標	1,000	1,000	1,000
		実績	765	694	
⑤行方不明高齢者の早期発見・保護に向けた地域連携の構築	見守り SOS ネットワーク協力者数(累計)(人)	目標	400	450	500
		実績	418	443	
⑦認知症カフェの充実	認証認知症カフェの延べ参加者数(人)	目標	1,000	1,100	1,200
		実績	100	205	
⑧認知症の人と家族の会の活動支援	広報紙での認知症政策の周知(回)	目標	1	1	1
		実績	1	1	

(3) 在宅医療と介護連携の推進

【第 8 期計画の主な施策】

<ul style="list-style-type: none"> ①医療と介護の連携体制の整備 ②地域の医療・福祉資源の把握及び活用 ③地域住民への啓発

【取組状況】

- 医療と介護を必要とする高齢者を地域で支えるため、在宅医療・介護連携支援センターを中心に多職種の連携や専門職を対象とした講習会・研修会の開催、市民を対象としたフォーラムを開催しています。
- 地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、医師、看護師、ケアマネジャーなど多職種でのグループワーク等の研修を実施しました。2022 年度の第 1 回目の研修会では「新型コロナウイルス感染症について」をテーマに開催し、2021 年度・2022 年度は年 2 回開催し、各研修会 20～30 人程度が参加しています。また、研修会終了後に参加者の声を集めながらよりよい研修会の開催に努めています。
- 多職種が連携を図る上で必要な地域の医療・介護の連携ツールである「たかさご在宅医療・介護関係機関リスト及び病診連携カード(かかりつけ医のご紹介)」を作成し、地域の医療・福祉資源の把握と活用を進めています。
- 「これからの在宅医療～最期まで住み慣れた家で暮らすために～」をテーマに在宅医療、在宅介

護の理解を深めるため「高砂市在宅医療推進フォーラム」を開催しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催に至りませんでした。2021年度はケーブルテレビでの放送及び在宅医療・介護連携支援センターのホームページに動画掲載するなど、様々な方法を用い、在宅医療等への理解浸透に向けて取り組んでいます。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①医療と介護の連携体制の整備	医療と介護の連携研修会の開催数(回)	目標	5	5	5
		実績	2	2	
③地域住民への啓発	高砂市在宅医療推進フォーラム開催数(回)	目標	1	1	1
		実績	1	1	

(4) 地域ケア会議の充実

【第8期計画の主な施策】

①地域ケア会議の充実・連携

【取組状況】

- 地域包括ケアシステムの実現に向けた手法として、高齢者個人に対する施策の充実と、それを支える社会基盤の整備を図ることを目的に地域ケア会議を開催しています。
- 地域ケア会議は、
 - 個別ケア会議：高齢者を取り巻く様々な課題等を多職種で検討
 - 地域ケア実務者会議：個別ケア会議で蓄積した地域課題の把握、整理、分析など地域課題の発見やネットワーク機能構築
 - 高砂市地域ケア推進会議：政策形成など市レベルの地域づくりを推進
 の3つの会議で構成しており、情報交換を行いつつ、相互の連携を深めています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①地域ケア会議の充実・連携	①個別ケア会議の実施回数(再掲)	目標	22	22	22
		実績	21	24	

基本目標3 自立を支える福祉サービスの充実

(1) 生活支援サービスの充実・強化

【第8期計画の主な施策】

①介護予防サービスB（住民主体型サービス）の整備
②介護予防サービスC（短期集中予防型サービス）の充実
③第2層生活支援コーディネーターの配置（再掲）

【取組状況】

- ボランティアやNPO、民間企業、協同組合等の多様な主体による介護予防・生活支援サービスの提供及び確保に向け、取り組みを進めています。
- 介護予防サービスB（住民主体型サービス）の実施主体は2021年で1か所、2022年で2か所開設され、計3か所となりました。利用者は2022年で延べ307人となっています。
- 介護予防サービスC（短期集中予防型サービス）は2022年で新たに3か所の指定を行い、実施主体は通所で2事業所、訪問で5事業所が実施しています。
- 介護予防サービスA（緩和した基準によるサービス）は、事業所において指定申請はされているものの、利用者が少ない状況にあります。
- 事業の内容等について、広く周知していく必要があります。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
		目標	-	-	1
①介護予防サービスB(住民主体型サービス)の整備	新規実施団体(団体数)	実績	1	3	

(2) 高齢者福祉サービスの充実

【第8期計画の主な施策】

①生きがい対応型デイサービス
②緊急通報システムの貸与（再掲）
③地域見守り運動の充実
④配食サービスによる見守り体制の実施（再掲）
⑤老人クラブ活動への助成
⑥高齢者敬老事業の実施
⑦介護者のつどいの開催
⑧移動支援の実施

【取組状況】

- 在宅生活を支える福祉サービスや助成、見守り体制の整備、家族介護者に対する支援など、様々な支援に取り組んでいます。
- 生きがい対応型デイサービスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年は急激に利用者が減少しましたが、その後感染症対策を行いながら実施し、徐々に利用者が増えている状況にあります。また、そのほかの集う事業に関しても事業の中止や規模を縮小しての実施など、様々な事業に影響を与えました。
- 高齢者の見守り活動として、民生委員・児童委員及び福祉委員等を中心に見守り活動を展開していますが、コロナ禍の影響などで、支援が必要な人や世帯の潜在化が危惧されています。
- 高齢者を介護している家族や介護に関心のある人などを対象に、介護知識や技術の提供を目的に「介護者のつどい」を開催しており、2022年は市内4か所で4回実施しています。
- 高齢者の移動手段としてタクシーを利用する場合、その費用の一部を助成（タクシー券の交付）しています。2022年で延べ1,507枚の利用があり、2021年の569枚から大きく増加しています。また、2023年度より要支援者や運転免許返納者も対象者に加え、事業の充実を図っています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①生きがい対応型デイサービス	延べ利用人数(人)	目標	9,000	9,500	10,000
		実績	4,040	6,998	
⑦介護者のつどい開催	開催回数(回)	目標	4	4	4
		実績	1	4	
⑧移動支援の実施	移動支援の実施	目標	計画期間内の実施		
		実績	実施済み		

(3) 高齢者の尊厳に配慮したケアの推進

【第8期計画の主な施策】

- ①高齢者虐待の防止
- ②中核機関の設置（再掲）
- ③福祉サービス利用援助事業の活用・促進
- ④消費者トラブルの防止
- ⑤施設等における身体拘束ゼロに向けた取組

【取組状況】

- 高齢者虐待防止に向けた取組や高齢者を狙った悪質な消費トラブルの防止、認知症高齢者等に対する成年後見に関する支援に取り組んでいます。
- 虐待を受けている高齢者に迅速かつ適切に対処するため、「高砂市高齢者虐待等防止対策ネットワーク（虐待ゼロネット）」を設置しています。関係機関と密に連携を図り、高齢者に対する虐待の防止・対応及び啓発活動に取り組んでいます。
- 成年後見の中核機関を2022年度に市に設置するとともに、本市における成年後見に関する取組をさらに進めるため、「高砂市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会」を開催し、各関係機関における成年後見制度の相談件数や対応状況について共有し、今後の対応等に対する協議を進めています。成年後見の中核機関は現在市に設置していますが、2024年度から社会福祉協議会での実施に向けた協議を進めています。【再掲】
- 認知症高齢者や知的障がい、精神障がいのある人など、判断能力が低下している人に対する成年後見制度等の活用と促進に向け、地域包括支援センター及び4か所のランチと連携し、取り組んでいます。
- 高齢者を狙った悪質な勧誘や売買等を防ぐため、消費トラブルに関する記事を市広報誌に掲載するなど、消費トラブルを未然に防ぐ取組を進めています。消費生活に関する相談は毎年度、約200件程度の相談が寄せられています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
		目標	220	210	200
④消費者トラブルの防止	高齢者の相談件数	実績	257	235	

(4) 災害や感染症対策に係る体制整備

【第8期計画の主な施策】

- ①介護サービス事業所等への災害・感染症に対する備蓄等の事前準備の普及啓発
- ②マイ避難カードの作成支援及び活用方法の周知
- ③避難行動要支援者個別計画作成の推進

【取組状況】

- 感染症や災害時に迅速な対応ができるよう、市民及び介護サービス事業者等に対して様々な周知・啓発に取り組んでいます。
- 市民一人ひとりが災害時に迅速に行動ができるよう、避難に必要なタイミングや避難場所、行動方法等を書き記す「マイ避難カード」の普及・啓発に努めています。
- 災害発生時に自ら避難することが困難な人（避難行動要支援者）を把握し、迅速な避難支援につなげられるよう、避難行動要支援者個別計画の作成を進めています。また、2023年2月に「高砂市避難行動要支援者・避難支援の手引き」を改訂し、自主防災組織や自治会等に説明を行うなど、個別支援計画の作成促進に努めています。
- 介護サービス事業者の災害・緊急時の対応や感染症対策の実施状況について、実地指導時に対策状況の確認と、備蓄状況の目視点検を行い、状況に応じた指導に取り組んでいます。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
②マイ避難カードの作成支援及び活用方法の周知	防災に関する出前講座実施数	目標	40	40	40
		実績	35	32	
③避難行動要支援者個別計画作成の推進	新規作成数	目標	20	20	20
		実績	0	5	

基本目標4 総合的な介護予防の推進（保健事業との一体的な推進）

（1）健康づくりの推進、意識の向上

【第8期計画の主な施策】

①高齢期の運動・スポーツ活動の啓発
②にこにこ健康チャレンジ事業
③いきいき百歳体操
④かみかみ百歳体操

【取組状況】

- 健康寿命の延伸に向け、介護予防や健康づくり活動、スポーツ活動の推進に取り組んでいます。
- 高齢者をはじめ、すべての年代のスポーツ活動を推進するためスポーツクラブ 21 への参加促進に取り組んでいます。スポーツクラブ 21 は 10 小学校区で活動を展開していますが、高齢期会員数は年々減少傾向にあります。
- 市民一人ひとりの運動習慣や健康的な生活習慣の動機付け及びその取組を効果的かつ継続的に促進することを目的に「にこにこ健康チャレンジ事業（にこチャレ!）」に取り組んでいます。参加者は毎年度 300 人を超え、うち 7 割が 60 歳以上の人となっており、参加者の多くが「体質が改善した」「運動能力が向上した」など、健康意識・状態の改善につながっています。
- 高齢者の介護予防活動を促進するため、「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」の普及・啓発、訪問による活動支援などに取り組んでいます。いきいき百歳体操は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、参加者数は減少していますが、体操の DVD の配布やホームページで動画を配信するなど、すそ野を広げる活動に取り組んでいます。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021 年	2022 年	2023 年
①高齢期の運動・スポーツ活動の啓発	スポーツクラブ 21 の高齢期会員数(人)	目標	520	525	525
		実績	476	448	
②にこにこ健康チャレンジ事業	参加登録者数(人)	目標	500	510	515
		実績	323	326	
③いきいき百歳体操	参加者数(人)	目標	2,400	2,500	2,600
		実績	1,451	1,409	

(2) 介護予防の推進

【第8期計画の主な施策】

- ①介護予防普及啓発事業の実施
- ②地域介護予防活動事業の実施
- ③一般介護予防評価事業の実施
- ④地域リハビリテーション活動支援事業の実施
- ⑤ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチ（フレイル予防）

【取組状況】

- 効果的な介護予防を行うため、基本チェックリストを実施し、何らかの支援を要する人の把握に努めるとともに、リハビリテーション専門職が関与した介護予防事業の普及啓発やいきいき百歳体操などの地域における取組、総合事業等を通じた介護予防などを推進しています。
- 「いきいき百歳体操便り」を作成し、自主グループに配布するとともに、フレイル予防体操（いきいき百歳体操）のDVDを配布するなど、介護予防の普及・啓発に取り組みました。
- 地域の介護予防活動として「ふれあいサロン」を展開しており、社会福祉協議会の小地域福祉部会（単位自治会ごとに設置）でふれあいサロンを実施している部会は2022年で63部会があり、その活動を支援しています。
- いきいき百歳体操グループ代表者へアンケート調査を行い、事業評価を実施しました。すべてのグループで、今後も活動意向を示しており、求める支援内容としては支援訪問時の健康教育（健康に関するミニ講話等）の実施の希望が多くみられました。
- 地域リハビリテーション活動支援事業として、いきいき百歳体操等通いの場に専門職を派遣しています。2021年度の希望はなかったものの、2022年は2箇所を訪ねています。
- フレイル予防として、糖尿病や生活習慣病を有する人で、今後重症化の恐れが高い人を対象に保健指導を実施しています（ハイリスクアプローチ）。また、通いの場でフレイル予防（栄養・口腔・運動）に関する健康教育や健康相談を実施しています（ポピュレーションアプローチ）。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①介護予防普及啓発事業の実施	いきいき百歳体操 参加者数 (人)(再掲)	目標	2,400	2,500	2,600
		実績	1,451	1,409	
②地域介護予防活動事業の実施	ふれあいサロン部会数	目標	69	71	73
		実績	65	63	

基本目標5 介護保険サービス提供体制の充実

(1) 介護人材の確保について

【第8期計画の主な施策】

- | |
|--|
| ①ミニ面接会の開催
②2人体制の訪問看護師・訪問介護員に対する補助の導入
③高齢者認定家事援助ヘルパーの養成 |
|--|

【取組状況】

- 介護人材不足の解消と安定的な介護人材の確保に向けた取組を進めています。
- 介護人材不足の解消に向け、市内の介護事業所が参加する就職面接会・相談会を年2回開催しました。そのうち1回は介護職・医療職に特化したミニ面接会を実施しました。
- 訪問看護師・訪問介護員のサービス提供時の安全を確保するため、訪問看護師・訪問介護員安全確保・離職防止対策補助事業を2022年度から開始しました。
- 介護予防サービスA（緩和した基準によるサービス）に家事援助ヘルパーとして従事することができる「高齢者認定家事援助ヘルパー養成研修」を実施し、2021年度・2022年度ともに19人が参加しています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①ミニ面接会の開催	実施開催回数	目標	4	4	4
		実績	2	2	
②2人体制の訪問看護師・訪問介護員に対する補助の導入	補助の導入	目標	期間内の整備を目指す		
		実績	2022年から実施		

(2) 介護サービスの充実

【第8期計画の主な施策】

- | |
|---------------|
| ①地域密着型サービスの充実 |
| ②施設サービスの充実 |

【取組状況】

- 要支援・要介護認定者が増加している中、必要な介護保険サービスの確保に努めています。
- 第8期計画において、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護または看護小規模多機能型居宅介護の整備を目標とし公募しましたが、応募はありませんでした。
- 第8期計画において、介護老人福祉施設または特定施設入居者生活介護の整備を目標とし、2024年度に開設する介護老人福祉施設（80床）の事業者が決まりました。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①地域密着型サービスの充実	小規模多機能型居宅事業所または看護小規模多機能型居宅介護事業所の新たな設置	目標	期間内の整備を目指す		
		実績			
②施設サービスの充実	介護老人福祉施設と特定施設の定員	目標	80～100床		
		実績	介護老人福祉施設が2024年度から開設		

(3) 介護給付適正化に向けた取組の推進

【第8期計画の主な施策】

- ①要介護認定の適正化
- ②適切なケアプランの推進
- ③住宅改修の適正化
- ④医療情報との突合・縦覧点検の実施
- ⑤介護給付費通知の実施

【取組状況】

- 介護給付の適正化を図ることにより、不適切な給付の削減、介護給付費や介護保険料の増大を抑制することにつながります。
- 要介護認定にあたり、新規申請は原則、市職員にて認定調査を行い、認定調査員によって調査結果に差異が出ないように取り組んでいます。また、認定審査会においても研修会等を実施し、参加の促進をすることで格差の是正に努めています。
- 給付適正化事業により市内6事業所、計60人のケアプラン点検を実施しました。2021年12月に高砂市と介護支援専門員との間で適切なケアマネジメントのあり方の共有と、ケアマネジメントの質の向上を図ることを目的とする「高砂市ケアマネジメントに関する基本指針」を策定するとともに、介護支援専門員を対象に適切な計画立案のための研修会を開催しました。
- ほか、住宅改修の適正化及び医療情報との突合・縦覧点検を実施するなど、適切な介護保険サービスの利用につながるよう、取り組んでいます。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
②適切なケアプランの推進	ケアプランの点検数	目標	60	60	60
		実績	60	60	
③住宅改修の適正化		目標	現在も建築職の職員と事前の工事箇所確認を行っています。引き続き建築職と同行し確認していきます。		
		実績			
⑤介護給付費通知の実施		目標	介護サービス利用者への年間3回、全件通知を行います。引き続き、年間3回、全件通知を行います。		
		実績			

(4) 介護サービスの質の向上

【第8期計画の主な施策】

- | |
|-------------------|
| ①介護サービス事業者への指導・監督 |
| ②相談窓口の充実 |

【取組状況】

- 利用者一人ひとりの状態にあった質の高いサービスが提供されるよう、介護サービス事業者への指導・監督に取り組むとともに、介護サービスに関する情報提供と相談窓口の充実等に努めています。
- 介護に携わる人材を増やすため高齢者認定家事援助ヘルパー養成研修を実施するとともに、兵庫県が実施している研修や講座等に関する情報を発信するなどの取組を進めています。
- 兵庫県介護支援専門員協会高砂支部の研修会に参加し、制度に関する説明会を実施するとともに、市指定事業所に対する運営指導も行っています。
- 人権研修や認知症研修、事業所に対する指導など、介護や福祉に関する専門的な研修に参加し、市相談窓口の充実と市職員の資質向上に努めています。

評価指標と実績

主な施策の内容	評価指標		2021年	2022年	2023年
①介護サービス事業所への指導・監 査	市指定事業所の運営指導件 数	目標	10	10	10
		実績	3	6	
②相談窓口の充実	専門的研修の受講件数	目標	2	2	2
		実績	2	2	